

ると考えられた。また、国立感染症研究所細菌第二部で開発された LAMP 法は real-time PCR と同等の高い感度と特異性を有することが確認され、*B. holmesii* の診断に有用な方法と考えられた。

*B. holmesii* は当初、基礎疾患を有する患者からの報告が多かったが、基礎疾患のない百日咳様症状を呈する患者からも報告されている。また、疫学的にはヒト-ヒト感染も示唆されていることから、今後、公衆衛生上注意すべき病原体の一つになる可能性があり、注意していく必要がある。

九州・沖縄・山口地方酸性雨共同調査研究について

・中村雅和<sup>1)</sup>、岩切淳<sup>1)</sup>、眞崎浩成<sup>1)</sup>、森下敏朗<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>宮崎県衛生環境研究所、<sup>2)</sup>現 宮崎県食品開発センター

「平成 24 年度県立試験研究機関合同研修会  
(平成 24 年 6 月 25 日 都城市)」

九州・沖縄・山口地方酸性雨共同調査研究(第 1 期)により平成 14~22 年度のデータ解析を行った。九州北部、九州西部及び九州中部における nss-SO<sub>4</sub><sup>2-</sup>の湿性沈着量及び太宰府における乾性沈着濃度は平成 14~18 年度は増加(上昇)傾向にあったが、平成 19 年度以降は減少(低下)傾向を示した。中国における SO<sub>2</sub> 排出量は平成 18~19 年度をピークに増加傾向から減少傾向に転じたと考えられており、本地方における nss-SO<sub>4</sub><sup>2-</sup>の挙動が中国の SO<sub>2</sub> 排出量変動の影響を受けていると考えられた。越境汚染の影響は今後も懸念されることから、モニタリングを継続し、その影響を注視していく必要があることを報告した。

九州・沖縄・山口地方における酸性雨の状況について

・中村雅和<sup>1)</sup>、濱村研吾<sup>2)</sup>、岩切淳<sup>1)</sup>、祝園秀樹<sup>3)</sup>、眞崎浩成<sup>1)</sup>、森下敏朗<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>宮崎県衛生環境研究所、<sup>2)</sup>福岡県保健環境研究所、<sup>3)</sup>現 宮崎県食品開発センター

「第 53 回大気環境学会年会  
(平成 24 年 9 月 13 日 横浜市)」

九州・沖縄・山口地方酸性雨共同調査研究(第 1 期)により平成 14~22 年度のデータを解析した結果、九州北部、九州西部及び九州中部におけ

る nss-SO<sub>4</sub><sup>2-</sup>の湿性沈着量及び太宰府における乾性沈着濃度が平成 14~18 年度は増加(上昇)傾向にあったが、平成 19 年度以降は減少(低下)傾向を示した。これらの挙動は中国における SO<sub>2</sub> 排出量の変動と類似しており、本地方では nss-SO<sub>4</sub><sup>2-</sup>において中国からの影響を受けていると考えられることを報告した。

九州・沖縄・山口地方酸性雨共同調査研究(第 1 期)について

・中村雅和<sup>1)</sup>、濱村研吾<sup>2)</sup>、岩切淳<sup>1)</sup>、祝園秀樹<sup>3)</sup>、眞崎浩成<sup>1)</sup>、森下敏朗<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>宮崎県衛生環境研究所、<sup>2)</sup>福岡県保健環境研究所、<sup>3)</sup>現 宮崎県食品開発センター

「第 38 回九州衛生環境技術協議会  
(平成 24 年 10 月 23 日 福岡市)」

九州・沖縄・山口地方酸性雨共同調査研究(第 1 期)により平成 14~22 年度のデータを解析した結果、九州北部、九州西部及び九州中部における nss-SO<sub>4</sub><sup>2-</sup>の湿性沈着量及び太宰府における乾性沈着濃度が平成 14~18 年度は増加(上昇)傾向にあったが、平成 19 年度以降は減少(低下)傾向を示した。これらの挙動は中国における SO<sub>2</sub> 排出量の変動と類似しており、本地方では nss-SO<sub>4</sub><sup>2-</sup>において中国からの影響を受けていると考えられた。また、九州北部では近年も NO<sub>3</sub>-湿性沈着量が上昇傾向にあり、NO<sub>3</sub>-においても越境汚染の影響を受けている可能性が考えられた。